小栗判官伝説と照手姫

実在した小栗氏をモデルに描かれた小栗判官伝説。伝承は時代・地域により異なりますが、ここでは物語の舞台である協和地区に伝わる小栗判官伝説を紹介します。

協和地域は、平安時代の終わり、伊勢神宮の領地「小栗御厨」として特別な地域でした。そして、この御厨を管理したとされるのが桓武天皇の血を引く名門「常陸平氏」の小栗一族でした。

時は移り、室町時代の応永年間、ここ小栗御厨を治めてきた名門小栗一族に玉のような男の子が生まれました。この子が後に第15代の城主となり判官と呼ばれる小栗助重です。剣の腕前に加え、人望と学問も備えた一廉の人物といわれています。

小栗城の落城と照手姫との出会い

1423年（応永30年）、幾多の戦乱をくぐり抜けてきた小栗城が一大攻防戦を迎えます。名馬「鬼鹿毛」を駆る助重のもとには、武勇に名を馳せた小栗十勇士、さらには近隣の豪族たちも馳せ参じます。

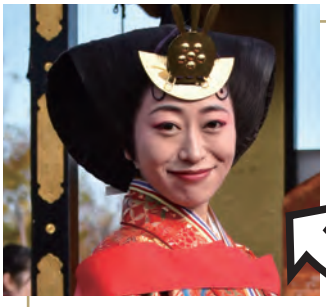
戦いは明け方から始まり、怒涛のごとくに攻め込む敵を追い散らしながら、一進一退の様相となります。しかし、武勇の甲斐無く、ついに小栗

伝・鬼鹿毛の轡　助重の愛馬「鬼鹿毛」のものとされる轡の一部

祖母の故郷筑西市で照手姫を演じて

今年の小栗判官まつりで照手姫を演じてくれたのは、千葉県在住の野村瞳さん。野村さんは、毎年鎧武者として小栗判官まつりに参加してくれていました。大好きだった祖母の出身地で、小栗判官まつりの照手姫役を演じることが夢だったそうです。重い衣装を身に着け、念願の大役を堂々と演じてくれました。

第30回小栗判官まつり
照手姫
野村 瞳さん（千葉県在住）



▶昨年、鎧武者として出演した際の野村さん

常総古文化研究所所長
大谷　昌良（おおや　まさよし）さん

郷土に根差した小栗判官伝説 これからも大切に受け継がれてほしい

小栗判官伝説は、地元に根差した古い伝説です。小栗氏については、江戸時代に浄瑠璃や浮世絵、現代でも歌舞伎の題材になるなど、さまざまな物語が創作され、時代を超えて広く人々に愛されています。歴史的にも、頑なまでに戦いを挑む小栗氏の姿が、広く人々の心を掴んだのだと思います。

協和地区では、この伝説をもとにした紙芝居が演じられています。形を変えても、時代を超えて人々に受け継がれる、小栗判官伝説。今後も伝説の舞台として、大切に受け継がれていくことを願います。

城は落城、助重の父、満重は小栗家再興を助重に託し、壮絶な最期を遂げました。夕やみにまぎれて、助重は十勇士らわずかな供を連れて涙ながらに落ち延びました。

小栗主従は、三河国（現・愛知県）の同族をたよる途中、武蔵・相模の豪族である横山大膳の館に身を寄せます。ここで、長旅の小栗主従をもてなしたのが、横山の一人娘「照手」でした。その晩のこと、振る舞い酒に毒を盛り、助重を亡き者にしようとする相談が進められていました。照手はそのことを、ひそかに助重に耳打ちし、助重は難を逃れることができました。しかし、十勇士ら供の者たちは毒酒を飲み干し殺されてしまいます。助重は、照手の手引きによって館を抜け出し、藤沢の遊行寺「太空上人」のもとにたどり着きますが、自力では歩くこともままならず、髪は抜け落ち、餓鬼阿弥の姿となってしまいます。

小栗十勇士　助重とともに幾多の合戦で武勇をとどろかせた10人の強者

熊野の湯の峰で回復させようという、太空上人の計らいで、餓鬼阿弥（助重）は箱車に乗せられました。箱車には、「このものを湯の峰に送り届けること。車をひと引きすれば、引いた分だけ仏のご加護が得られること。ゆめゆめ疑うことの無いこと」と書かれた札が下げられていました。

一方、照手は横山の怒りを買い、家を追い出されてしまいます。流れ流れて美濃国（現・岐阜県）の青墓宿で仕え、身分を隠し、顔をよごし、髪はボサボサ、粗末な着物姿で過ごしていたといいます。

伝・力比べの石　助重が体力の回復を確かめるために握ったという石。親指で付けた大きな窪み。

小栗判官の復活 そして故郷へ

ある日のこと、箱車に乗せられた餓鬼阿弥が青墓宿にまで引かれてきました。信心深い照手は変わり果てた助重とは知らず、3日間の暇をもらい箱車を引きます。その後も多くの人々が入れ替わり立ち代わり箱車を引き続け、やっとのことで熊野の湯の峰にたどり着きました。

助重は、幾日も湯につかって元のからだに回復します。やがて、助重はふるさと小栗を思う心がだんだんと強くなっていきました。京都の幕府に願い出て、小栗城と領地の回復を図るとともに、美濃国の青墓宿にいる照手を助け出します。また、裏切り者をこらしめるため、横山の館に攻め入って、十勇士の無念を晴らします。

こうして困難を乗り越えて領地を取り戻した助重は、照手姫とともにふるさと小栗御厨の地に戻り、小栗の城を建て直し、照手姫とともに末永く幸せに暮らしたということです。

銅造観音菩薩立像　照手姫の守り本尊とされる像（市指定文化財）

協和地区では、これら小栗判官伝説をもとに、平成元年から小栗判官まつりを開催しています。

引用参考：小栗氏と小栗伝説
－小栗判官と照手姫の世界－